

目次

I. 子ども虐待防止とオレンジリボン.....	2
II. 子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー事業の概要.....	4
III. 第12回子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー2018 実施報告.....	6
1. 全コース図.....	6
2. ランナーの職種と人数.....	7
3. 各区のたすきリレーの行程と人数.....	8
4. 山下公園でのブース・イベント.....	9
IV. 写真でつづる、子どもの明るい未来を願う思い.....	11
1. 都心コース.....	11
2. 川崎コース.....	12
3. 湘南コース.....	13
4. 鎌倉、三浦、横須賀コース.....	14
謝辞.....	15

I. 子ども虐待防止とオレンジリボン

「児童虐待防止法」が施行された 2000 年以降、児童虐待防止に向けた様々な取組みが行政レベルや民間レベルで活発化しているが、増え続ける虐待ケースの前に、児童相談所や児童福祉施設は支援が現状に追いつかない状況が続いている。児童相談所の扱う虐待対応件数は、1990 年に統計を取り始めてから、一度も前年度を下回ったことはなく、2017 (H29) 年度には 133,778 件となった。

(図 1)。増加の背景には、児童虐待事件が絶えず報道され一般市民からの通報が増えたり、子ども虐待に対する積極的な介入によりケースが掘り起こされたりという側面もあるが、地域で支える力や子育て家庭の養育機能の低下等の問題から実際の虐待件数も増加している可能性を指摘する声も大きい。ただ、近年の増加の背景には、子どもの面前 DV が心理的虐待に当たることから、DV で家庭に介入して子どもがいるケースについて警察からの通報が増えたことがあり、児童虐待 4 種別の中でも心理的虐待がこの 3 年間第 1 位となっている。子ども虐待によって死亡した子どものについては、2014 (H28) 年度は 77 名の子どもが尊い命を失ったことが確認されている (表 1)。保護者からの虐待によって子どもの命が奪われていることを想像するだけで心が痛む。さらに、何らかの理由により保護者と暮らせない社会的養護のもとにいる子どもは約 4 万 5 千人いるのである (表 2)。

児童虐待の対応は、早期に発見し、適切な支援につなげることが必要であるが、何よりも重要なことは虐待の発生を予防すること、虐待の起こらない地域社会の創造である。そのためには地域社会がこの問題に目を背けず、関心を持っていただけるような啓発活動が重要となる。2004 年から 11 月を「児童虐待防止推進月間」として国は定め、民官問わず啓発や防止活動を積極的に行うよう呼び掛けるようになったのもこうした背景からである。

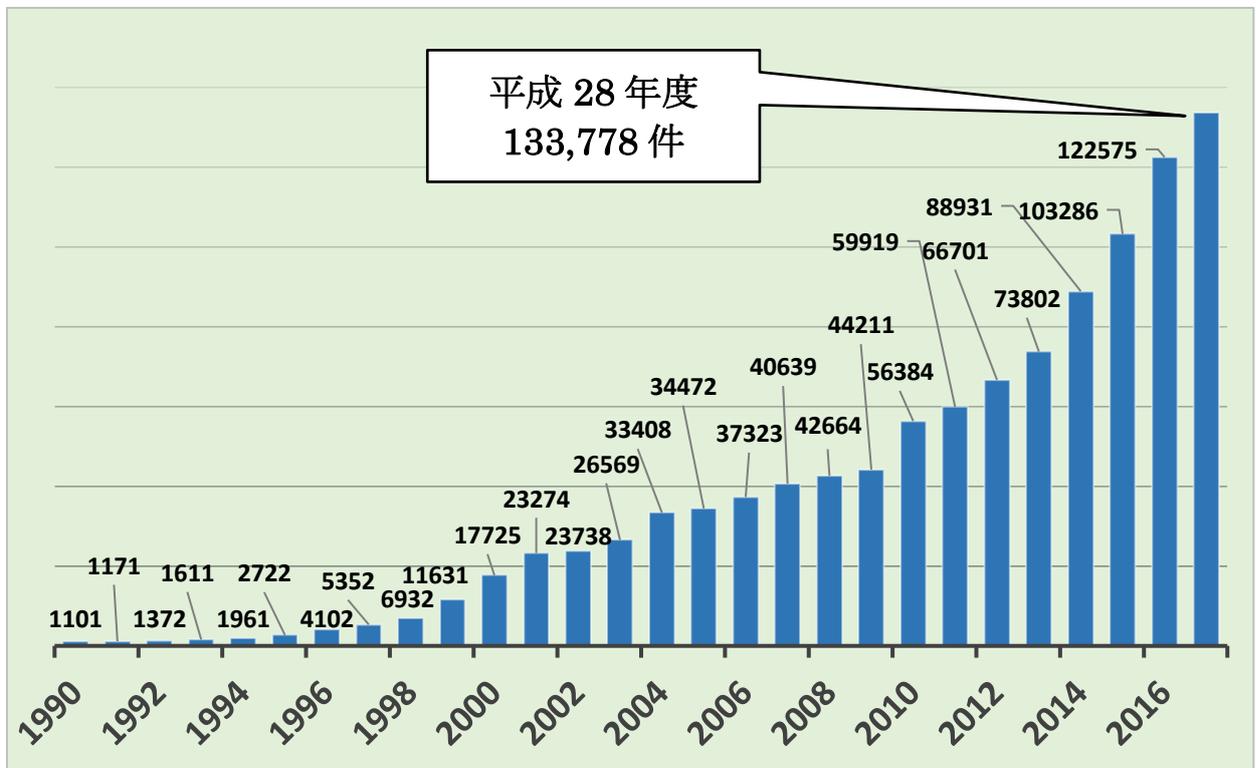


図 1. 児童相談所における児童虐待対応件数の推移

表 1. 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について
(社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会)

	第13次報告(2015年4月1日～2016年3月末日)			第14次報告(2016年4月1日～2017年3月末日)		
	心中以外の虐待死	心中による虐待死	計	心中以外の虐待死	心中による虐待死	計
事例数	48(8)	24	72(8)	49(18)	18(2)	67(20)
人数	52(8)	32	84(8)	49(18)	28(3)	77(21)

表 2. 社会的養護の現状について

8. 社会的養護の現状: 里親数、施設数、児童数等

里親	家庭における養育を里親に委託				ファミリーホーム	養育者の住居において家庭養護を行う(定員5～6名)	
	登録里親数		委託里親数			ホーム数	委託児童数
	養育里親	専門里親	養育里親	専門里親			
区分(里親は重複登録有り)	養育里親	9,073世帯	委託里親	3,180世帯	3,943人	313か所	1,356人
	専門里親	689世帯		167世帯	202人		
	養育里親	3,798世帯		309世帯	301人		
	親族里親	526世帯		513世帯	744人		

施設	乳児院	児童養護施設	児童心理治療施設	児童自立支援施設	母子生活支援施設	自立援助ホーム
対象児童	乳児(特に必要な場合は、幼児を含む)	保護者のない児童、虐待されている児童その他理生活上養護を要する児童(特に必要な場合は、乳児を含む)	家庭環境、学校における交友関係その他の理生活上の理由により社会生活への適応が困難となった児童	不良行為をなし、又はなすおそれのある児童及び家庭環境その他の理生活上の理由により生活指導等を要する児童	配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童	養育教育を終了した児童であつて、児童養護施設等を退所した児童等
施設数	138か所	615か所	46か所	58か所	232か所	143か所
定員	3,895人	32,605人	2,049人	3,686人	4,779世帯	934人
現員	2,801人	26,449人	1,399人	1,395人	3,330世帯 児童5,479人	516人
職員総数	4,793人	17,137人	1,165人	1,743人	2,080人	604人

小規模グループケア	1,341か所
地域小規模児童養護施設	354か所

※里親数、F Hホーム数、委託児童数、乳児院・児童養護施設の施設数・定員・現員は福祉行政事例(平成29年3月末現在)
 ※施設数*、ホーム数(F H除く)、定員*、現員*、小規模グループケア、地域小規模児童養護施設のか所数は家庭福祉課調べ(平成28年10月1日現在)(*乳児院・児童養護施設除く)
 ※職員数(自立援助ホームを除く)は、社会福祉施設等調査報告(平成28年10月1日現在)
 ※自立援助ホームの職員数は家庭福祉課調べ(平成28年3月1日現在)
 ※児童自立支援施設は、国立2施設を含む

子ども虐待防止に向けた活動の中の一つに「オレンジリボンキャンペーン」がある。これは、2004年に栃木県小山市で二人の幼い兄弟が虐待の末亡くなる事件が起き、その事件をきっかけに子ども虐待防止を目指した小山市の「カンガルーOYAMA」が、2005年に一市民団体の活動として始めたものである。その後、NPO法人「里親子支援のアン基金プロジェクト」協力のもと継続され、さらに、先述の「児童虐待防止全国ネットワーク」が賛同し厚生労働省との協働により全国的な活動を展開、2006年の啓発ポスターにはオレンジリボンが明記されるに至っている。その他、オレンジリボンキャンペーン活動として、各地域で講演会やチャリティーコンサートを行ったり、手作りのオレンジリボンを配布する活動を行ったりなど、様々に展開している。このオレンジという色は、里子たちが選んだ色であるとのことで、子ども虐待のない社会を祈って選ばれたのだろう。

オレンジリボン活動が幅広く行われているが、これらは子ども虐待のない社会を目指して行われているのである。

Ⅱ. 子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー事業の概要

「子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー」事業は、子ども虐待防止啓発活動を目的に、オレンジ色のたすきをリレーでつなぐ活動を実施する事業である。

子ども虐待防止は、多くの機関・分野の方々の協働と、市民の方々の理解と協力が不可欠である。子ども虐待防止の象徴であるオレンジリボンをつなぐに仕立て、これをリレーすることにより、子ども虐待防止への市民の関心を高めることと、機関・分野協働の大切さを訴えるものである。また、毎年、たすきリレーのゴール会場となる会場や、他中継所では、子ども虐待防止をアピールするちらしや手作りのオレンジリボンを配布するなど啓発キャンペーン活動を行う。

本事業は平成 19 年に立ちあがり、11 月 23 日～24 日の 2 日間かけて、第 1 回子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレーを開催した。また、11 月 24 日には、横浜市のみなとみらい地区の日本丸メモリアルパーク、読売新聞本社前におけるキャンペーン活動を行った。

続いて、平成 20 年 11 月 9 日（日）には第 2 回子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレーを開催した。湘南コース、都心コースに分かれ、グランモール公園（横浜市）にゴールし、ゴール会場では啓発活動も行った。

第 3 回は、平成 21 年 11 月 8 日（日）に開催し、前回に続き湘南・都心コースに分かれ実施した。同日開催であった湘南国際マラソンとたすきリレーの湘南 1 区はコースを重ね、そして日本丸メモリアルパークにゴールした。第 3 回はゴール会場だけでなく東京タワーにおいても啓発活動を行い、少しずつ活動が広がってきていることを実感した回であった。

第 4 回は、横浜において APEC 開催時期と重なったことから、11 月ではなく平成 22 年 10 月 31 日（日）に開催し、湘南・都心コースに分かれてオレンジのたすきをつないだ。都心コースは渋谷ハチ公からスタートし、ハチ公銅像にオレンジたすきをかけて啓発活動を行った。また、横浜市中区にある山下公園がゴール会場となり、会場ではステージやブースを設けて啓発活動を行い、一般の観光客にも子ども虐待防止の大切さを訴えた。APEC を避けて 10 月に行ったのだが、11 月からの推進月間の呼びかけの柿^{こけら}落とし的イベントとして有益である実感を得、全国でたすきリレーを実施していただく起点となる意味でも、10 月下旬の開催が好ましいと判断し、以降 10 月下旬の開催が恒例となった。

第 5 回は、平成 23 年 10 月 30 日（日）に開催し、第 3 のコースとして新たに鎌倉・三浦コースが設立された。鎌倉高德院よりスタートし、鶴岡八幡宮や関東学院大学などを中継し、ゴールを目指した。湘南コース・都心コース・鎌倉三浦コースを合わせた総ランナー数は 343 名となり、多くの方がオレンジのたすきをつないだ。

第 6 回は、平成 24 年 10 月 28 日（日）に開催した。湘南／都心／鎌倉・三浦・横須賀コースの 3 コースを総勢 479 名のランナーがたすきをつないだ。ゴール会場はみなとみらい地区の赤レンガ倉庫近くの新港中央広場に設け、1 日かけて啓発キャンペーンも行った。

第 7 回は、平成 25 年 10 月 27 日（日）に開催した。前年度と同じく湘南／都心／鎌倉・三浦・横須賀コースの 3 コースを総勢 510 名のランナーがたすきをつないだ。ゴール会場の山下公園では、子どもや家族も楽しめるブースを設営するなど過去最大のブース数となった。

第8回は、平成26年10月26日（日）に開催した。参加したランナー数は前年並みの、506名が走った。天候もよく、ゴール会場は過去最大の人たちが訪れ、にぎわった。また実行委員の一人である井上幸夫さんが、全国にたすきリレーの実施を呼びかけるため、この日から日本縦断の1万キロランのスタートを切った。

第9回は、平成27年10月25日（日）に開催した。この年のランナーは699名と前年度を大幅に上回った。前年度、日本縦断の1万キロランのスタートをきった井上さんが無事横浜に戻られ、たすきリレーランナーとともにゴールテープを切った。

第10回は、平成28年10月30日（日）に開催した。第10回という節目を迎え、メモリアルイベントとなった。たすきリレーでは川崎コースを新設し、総勢616名のランナーがたすきをつないだ他、ゴール会場の山下公園では家族向けのブースも多数設置され、多くの一般市民が訪れた。また、東日本大震災復興支援として多くの方のメッセージを募ってきた「祈りのFriendshipキルト・オレンジのたすき」を鎌倉高德院へ奉納した。さらに、全国13ヶ所に拡がっていた各地の実行委員会に声をかけ、賛同を得て、「オレンジリボンたすきリレー全国ネットワーク」として連携組織を立ち上げた。

第11回は、平成29年11月12日（日）に開催した。記念の10回大会を終え、新たなスタートを切ることとなった。例年同様、全5箇所のスタート地点から横浜市の山下公園をゴールとする3つのコース（都心・川崎コース、湘南コース、鎌倉・三浦・横須賀コース）で構成された。総勢639名のランナーが参加した。はじめて虐待防止推進月間である11月に開催したこともあってか、NHK初め多くメディアが取材に訪れました。

本事業の実行委員会は、子どもの虹情報研修センターが事務局となり、委員会は児童福祉施設、児童相談所、社会福祉協議会など有志のメンバーで構成されている。

Ⅲ. 第12回子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー2018 実施報告

1. 全コース図



2. ランナーの職種と人数

※複数区を走行したランナーはそれぞれ1名としてカウントしました

職種	都心	川崎	湘南	鎌三横	合計
児童福祉施設	47	57	71	48	223
児童相談所	63	36	12	3	114
里親・ファミリーホーム	0	0	1	0	1
児童家庭支援センター	3	0	0	10	13
福祉一般	14	4	5	7	30
教育	1	1	35	15	52
行政	48	6	19	38	111
医療	0	0	0	3	3
企業	7	2	14	28	51
学生	0	0	10	2	12
その他	0	0	69	22	91
合計	183	106	236	176	701

都心・川崎コース



湘南コース



鎌倉・三浦・横須賀コース



3. 各区のたすきリレーの行程と人数

(1) 都心・川崎コース(全ランナー数 290 人)

行 程	スタート地点	時 間	ゴール地点	人数
1 区(5km)	渋谷駅ハチ公前広場	9:20	東京タワー	33 人
2 区(5.5km)	東京タワー	10:15	品川児童相談所	26 人
3 区(7.1km)	品川児童相談所	11:15	大田区立大森スポーツセンター	21 人
4 区(4.4km)	大田区立大森スポーツセンター	11:55	ユースキン製薬(株)	24 人
5 区(3.2km)	ユースキン製薬(株)	13:00	鶴見区役所	28 人
6 区(4.6km)	鶴見区役所	13:30	セブンイレブン横浜浦島町店	21 人
7 区(6km)	セブンイレブン横浜浦島町店	14:15	山下公園 15:20 着	30 人

川崎コース

行 程	スタート地点	時 間	ゴール地点	人数
K.1 区(7.5km)	白山愛児園	8:40	川崎愛児園	11 人
K.2 区(6.5km)	川崎愛児園	9:50	川崎市社会福祉協議会	13 人
K.3 区(2km)	川崎市社会福祉協議会	10:50	新日本学園	8 人
K.4 区(3.9km)	新日本学園	11:15	川崎市子ども家庭センター	14 人
K.5 区(1km)	川崎市子ども家庭センター	11:50	しゃんぐりらベビーホーム	23 人
K.6 区(5km)	しゃんぐりらベビーホーム	12:10	ユースキン製薬(株)	18 人
K.T1 区(7.2km)	至誠館さくら乳児院	8:50	川崎市子ども夢パーク	11 人
K.T2 区(5.2km)	川崎市子ども夢パーク	10:00	川崎市社会福祉協議会	8 人

(2) 湘南コース(全ランナー数 236 人)

行 程	スタート地点	時 間	ゴール地点	人数
1 区(5.7km)	心泉学園	8:50	エリザベスサンダースホーム	66 人
2 区(5.0km)	エリザベスサンダースホーム	9:35	平塚市役所	34 人
3 区(7.2km)	平塚市役所	10:20	茅ヶ崎高校	29 人
4 区(7.3km)	茅ヶ崎高校	11:15	遊行寺	23 人
5 区(5km)	遊行寺	12:10	西横浜国際総合病院	25 人
6 区(11km)	西横浜国際総合病院	12:50	横浜市港南中央地域ケアプラザ	28 人
7 区(8km)	横浜市港南中央地域ケアプラザ	14:20	山下公園	31 人

(3) 鎌倉・三浦・横須賀コース(全ランナー数 176 人)

行 程	スタート地点	時 間	ゴール地点	人数
1 区(3.6km)	高德院(鎌倉大仏)	8:20	鶴岡八幡宮	16 人
2 区(6km)	鶴岡八幡宮	8:50	逗子市第一運動公園	7 人
3 区(5.5km)	逗子市第一運動公園	9:35	京急ストア葉山店	13 人
4 区(9.3km)	京急ストア葉山店	10:20	横須賀中央駅前広場	17 人
5 区(7.2km)	横須賀中央駅前広場	11:35	サンビーチ追浜	8 人
6 区(4.2km)	サンビーチ追浜	12:35	セブンイレブン横浜片吹店	4 人
7 区(7.5km)	セブンイレブン横浜片吹店	13:10	磯子地区センター	8 人
8 区(4.1km)	磯子地区センター	14:15	横浜市中央児童相談所	43 人
9 区(3.8km)	横浜市中央児童相談所	14:50	山下公園 15:20 着	37 人

三浦コース

行 程	スタート地点	時 間	ゴール地点	人数
M.1 区(8.5km)	マホロバマインズ三浦	9:10	京急久里浜駅前商店街	11 人
M.2 区(7.5km)	京急久里浜駅前商店街	10:25	横須賀中央駅前広場	12 人

4. 山下公園でのブース・イベント

☆イベントのタイムスケジュール

時間	内容
11:00	オープニング!
	ランナー音声継
12:00	栗ちゃんと仲間たちのパフォーマンス
13:00	ネリマックス ショー
	ランナー音声継
15:30	ゴールセレモニー!!!



ネリマックス!

みんなで万歳!



栗ちゃんと仲間たち



横浜市キャッピー



かながわキンタロウ

神奈川県



横浜市子ども青少年局



横浜市民生委員児童委員協議会



こどもついで横浜



NPO てんぼ



NPO CROP-MINORI



ユースキン製薬(株)



(公財)資生堂社会福祉事業財団



カンガルー OYAMA



神奈川県保険医協会



本部

☆ブースの内容と主催者

ブース内容	提供	ブース内容	提供
スマートボールと輪投げで遊ぼう	横浜市子ども青少年局	子ども虐待防止啓発	神奈川県保険医協会
みんなで作業しよう	横浜市民生委員児童委員協議会 横浜市主任児童委員連絡会	子ども虐待防止 神奈川キャンペーン	神奈川県
バルーンアートを楽しもう！！	NPO 子どもセンターてんぽ	子どもの未来のために	(公財)資生堂社会福祉事業財団 全国児童家庭支援センター協議会
くじ引き	こどもみらい横浜 (横浜里親会)	オレンジリボン あなたの胸に！	NPO カンガルーOYAMA
懐かしの子どもの遊び ～ドルフィンセラピーの紹介～	NPO CROP.-MINORI	オレンジリボンたすき リレー 子ども虐待の現状と対応	本部 オレンジリボンたすき リレー実行委員会
ハンドケア講習	ユースキン製薬(株)		





IV. 写真でつづる、子どもの明るい未来を願う思い

1. 都心コース



2. 川崎コース（都心 K コース）



3. 湘南コース



4. 鎌倉・三浦・横須賀コース



謝辞

まず、たすきを身につけて走っていただいたランナーの皆様に感謝申し上げます。

次の方々には財政面での支援をしていただきました（敬称略）。（公財）資生堂社会福祉事業財団、（公財）神奈川県新聞厚生文化事業団、神奈川県生命保険協会、ユースキン製菓（株）、公益財団法人SBI子ども希望財団、サッポロホールディングス（株）、ポッカサッポロフード&ビバレッジ（株）、湘南信用金庫、かながわ信用金庫、神奈川県保険医協会、（株）ガリバー、用賀カイト、（有）東京仁藤商店、川崎リパティライオンズクラブ、その他の団体。心より感謝申し上げます。また、当日、山下公園で募金くださった方々、ありがとうございました。

次にあげさせていただく後援の機関、団体の方々からは、大きなご支援をいただきました（敬称略）。厚生労働省、東京都、神奈川県、神奈川県警察、横浜市、川崎市、大田区、渋谷区、品川区、鎌倉市、茅ヶ崎市、平塚市、藤沢市、三浦市、逗子市、横須賀市、大磯町、二宮町、葉山町、栃木県小山市、全国児童相談所長会、神奈川県教育委員会、東京都社会福祉協議会児童部会、神奈川県社会福祉協議会、神奈川県児童福祉施設協議会、神奈川県母子生活支援施設協議会、神奈川県保険医協会、川崎市社会福祉協議会、（株）資生堂、（一社）東京キワニスクラブ、鎌倉高徳院、（公財）神奈川県新聞厚生文化事業団、（一社）横浜市ファミリーホーム連絡協議会、川崎市あゆみの会、その他の団体。大変ありがとうございました。

スタートや中継所、ランナーのサポート等にご協力をいただきました（敬称略）。東京都児童相談センター、品川児童相談所、東京都社会福祉協議会児童部会、大田区立大森福祉センター、大田区子ども家庭支援センター、大田区民生委員児童委員協議会、品川区民生委員児童委員協議会、渋谷区子ども家庭支援センター、渋谷区観光協会、渋谷区商店会連合会中央ブロック、（株）東急百貨店東横店、渋谷忠犬ハチ公銅像維持会、渋谷ピアネット、東京タワー、港区子ども家庭支援センター、神奈川県立こども医療センター、（協組）伊勢佐木町商店街、イセザキ・モール 1・2St.、鶴見区社会福祉協議会、横浜市中央児童相談所、磯子センター、金沢区・磯子区・戸塚区・港南区民生委員児童委員協議会、横浜市港南中央地域ケアプラザ、永野連合町内会、西横浜国際総合病院、セブン-イレブン横浜浦島町店、セブン-イレブン横浜片吹店、川崎市社会福祉協議会、川崎市こども家庭センター、川崎市あゆみの会、ユースキン製菓（株）、白山愛児園、川崎愛児園、新日本学園、しゃんぐりらベビーホーム、至誠館さくら乳児院、川崎市子ども夢パーク、鎌倉高徳院、鎌倉女子大学、鎌倉女子大学短期大学部、鶴岡八幡宮、鎌倉児童ホーム、鎌倉力車（株）、鎌倉YMCA、彩樹園、幸保愛児園、（株）京急ストア葉山店、葉山町商工会、ホテルマホロバマインズ三浦、久里浜商店会（協組）、team 黒船、サンビーチ追浜、横須賀市児童相談所、しらかば子どもの家、しらかばベビーホーム、春光学園、三浦しらとり園、神奈川県立茅ヶ崎高等学校、エリザベスサンダースホーム、心泉学園、平塚市役所、（特非）湘南ベルマーレスポーツクラブ、遊行寺、心から感謝申し上げます。

さらに次にあげさせていただく方々には、ゴール会場や中継地点で啓発活動にご協力いただきました。神奈川県、横浜市こども青少年局、子どもの虹情報研修センター、横浜市民生委員児童委員協議会、横浜市主任児童委員連絡会、（公財）資生堂社会福祉事業財団、全国児童家庭支援センター協議会、ユースキン製菓（株）、カンガルーOYAMA、おおいそ学園、（一社）こどもみらい横浜（里親会）、（特非）CROP-MINORI、（特非）子どもセンターてんぼ、神奈川県保険医協会、高田馬場・ジェットロボット、ネリマックスとその仲間たち、栗原さんをはじめとするパントマイ

マーの皆様、坂本博之さん、安東たか子さん、(特非)全国福祉未来ネットワーク、鎌倉市役所、横須賀市役所、横浜保育福祉専門学校、(株)北野書店、かしまだ駅前通商店街、有志ボランティアの方、心より感謝申し上げます。